

取組事例
施策 5

持続可能なまちづくりに 資する道路整備



① 取組事例 渋滞を緩和する道路の整備と市街地を一体化する鉄道との立体交差

道路と鉄道との立体交差化により、市街地の渋滞緩和と地域の連携強化に取り組んでいきます。



A. 広島市東部地区連続立体交差事業（安芸郡府中町～海田町）

広島都市圏東部地域においては、鉄道による市街地分断が効率的な基盤整備を阻害し、慢性的な交通渋滞を引き起こすなど、東部地域の拠点としての役割を十分発揮しきれない状況となっています。

このような状況を改善するため、鉄道を高架化する連続立体交差事業を推進するとともに、都市計画道路の整備や土地区画整理事業を併せた一体的な整備を行い、安全・快適で利便性の高い都市環境の形成をめざしたまちづくりを進めます。



鉄道沿線地域の渋滞状況

踏切遮断による渋滞状況



整備イメージ

完成イメージ



本事業と併せて関連街路の整備、JR向洋駅、JR海田市駅周辺の土地区画整理事業が実施されます。

B. (一) 坂小屋浦線（(都)坂中央線）（坂町平成ヶ浜～坂東）

当該地域は、町の東西を走るJR呉線により市街地が南北に分断され、踏切での交通渋滞の発生や、救命救急活動への支障をきたしています。このため、バイパス道路を整備し、交通の円滑化を図ることで、地域住民の利便性の向上、および地域間の連携強化に取り組みます。



| 整備概要 | |
|-----------------------------------|--|
| 路線名 | 概要 |
| (一) 坂小屋浦線（(都)坂中央線） （坂町平成ヶ浜～坂東） | W=車道幅員（歩道等を含む全幅員） L=約0.9km, W=6.0 (17.0) m (2車線) |



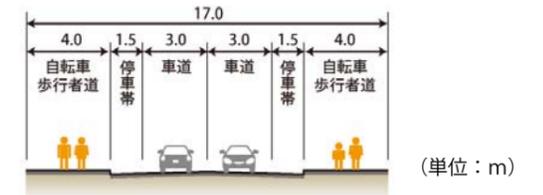
完成イメージ（JR呉線高架部付近）



町道の渋滞状況

町道での離合状況

標準横断面図（一般部）



(単位：m)

② 豊富な地域づくりを支える道路の整備

道路整備により、地域と拠点間の円滑な交通を確保とし、買い物・通院など、地域住民の日常生活を支えます。



国道186号、国道488号、(主)廿日市佐伯線は、吉和地域や佐伯地域と廿日市中心市街地を結ぶ合併支援道路です。国道488号と(主)廿日市佐伯線には、それぞれ未改良区間と一部の線形不良区間が残っています。このため、それらの道路整備を進め、安全で円滑な交通を確保し、地域の連携強化を図ります。

整備箇所



(国) 488号
東山バイパス

(都) 廿日市駅通線



取組事例②の事業箇所概要

| W=車道幅員（歩道等を含む全幅員） | |
|-----------------------------------|---|
| 路線名 | 概要 |
| (国) 488号 東山バイパス（廿日市市吉和～広島市佐伯区湯来町） | L=約8.2km（広島県側：3.7km、広島市側：4.5km）、 W=6.0 (8.0) m (2車線) |
| (主) 廿日市佐伯線（廿日市市峠） | L=約0.7km (2車線)、W=6.0 (10.0) m (2車線) |
| (都) 廿日市駅通線（2工区）（一）廿日市停車場線 | L=約0.3km (2車線)、W=6.0 (16.0) m (2車線) |